

近畿大学理工学部 正会員 江藤 剛治
大阪大学工学部 正会員 玉井 昌宏
近畿大学理工学部 正会員 竹原 幸生
近畿大学大学院 ○学生員 濱田 哲司

1. はじめに 昭和 50 年代から、親水性を考慮した河川整備が行われはじめた。そうした河川整備の中で、今後はとくに治水とともに親水に大きな効果があるスーパー堤防の考え方が有望視されている。スーパー堤防は広大な用地を要するため、周辺住民の協力と沿川地域の理解が必要であり、河道内外の様々な条件を考慮に入れて計画しなければならない。

この問題を考えるにあたってはまず、沿川、すなわち河川が何らかの影響を持つ範囲がどの程度になるかという点を明らかにしておく必要がある。このために考え得る様々の観点をあげた。また最も普通に考えられる沿川幅の定義として、河川空間の利用者が集まる範囲を取り上げ、利用者に対して簡単なアンケート調査を行った。

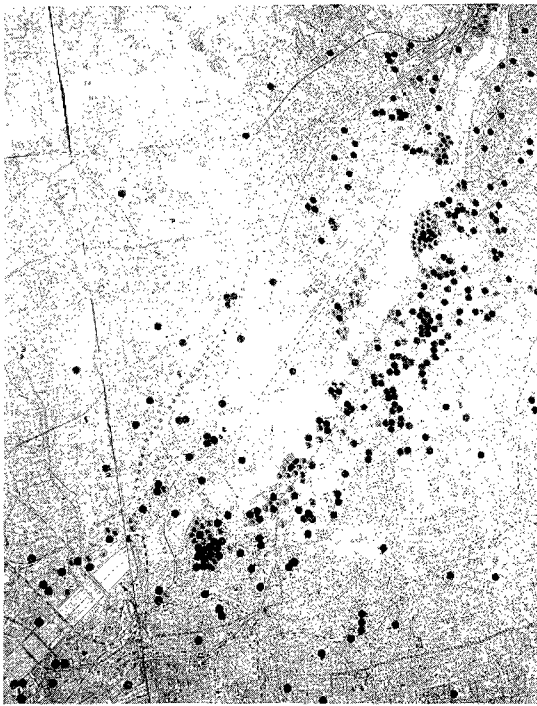
2. 沿川幅の観点 表－2 に沿川幅を考える際の観点的例を示す。幅長は現段階では直感的に

表－2 沿川幅の観点的例

分類	幅長	沿川幅の観点的
感性的	→	歩行者が近くに川の存在を感じる範囲
	→	自宅が沿川にあると感じる範囲
	→	航空写真に見られる川の痕跡
社会的	→	河川に関連ある名前の地域の範囲
	→	都市計画上の土地区分との関係
	→	水防団の組合区域
	→	地価
	→	建築物の質、老朽度等の違い
	→	河川敷利用者の居住地の分布
	→	河川水を飲料とする人の分布範囲
	→	河川水に依存する農地の範囲
	→	川で漁をする人が住んでいた範囲
	→	川で商売する人々の住む範囲
物理的	→	気温差
	→	湿度差
	→	風向、風速差
	→	河川の音
	→	河川・地下水の相互影響範囲
	→	蛇行の幅
	→	河川からの氾濫水が大きな運動エネルギーを持つ範囲
	→	流域全体の幅
生物的	→	洪水危険区域・過去の氾濫原
	→	水辺の動物の分布範囲
	→	親水性植物の分布範囲
	→	水鳥の巣との距離

決めたものである。今後これらの中から比較的計量が容易なものについて、一つずつ幅を求めていく予定である。

本報告では手始めに、河川敷利用者の居住地の分布範囲に関するアンケート調査を行った。



図－1 河川空間利用者の居住地と属性

Takeharu ETOH, Masahiro TAMAI, Kousei TAKEHARA, Tetuzi HAMADA

4. 河川空間利用者の居住地の分布範囲

アンケート調査の概要を表ー2に示す。平成9年秋の土曜、日曜ごとに淀川河川敷公園で口頭によるアンケート調査を行った。調査事項は、質問に答えて頂いた事項と、こちらで判断した項目で、合計9項目ある。得られた回答数は505人分である。

地図の作成

得られた回答から、河川空間利用者の居住地の分布を5万分の1の地図上に、交通手段（車、自転車、歩、バイク、電車）別に、五色のシールを張り付けて表した。居住地公園間の距離と交通手段の関係を図ー2に、淀川の利用頻度と交通手段の関係を図ー3に、目的と交通手段の関係を図ー4に示す。

結果

図ー1より、河川空間利用者の居住地は河川に沿って分布しているが予想していたよりはるかに広い。

図ー2より、車の場合、居住地公園間距離が3kmでピーク(18.8%)に達し、8kmまでで80%占めている。自転車では1kmでピーク(44.4%)に達し、3kmまでで90%占めている。徒歩では1kmでピーク(70.5%)に達し、2kmまでで90%占めていた。

図ー3より、車の場合、利用頻度が低い人数の割合(21.4%)は多く、利用頻度が高くなるにつれて、その割合(2.3%)は減少している。徒歩では逆に毎日来る人が最も多い、自転車は徒歩とよく似ている。バイク、電車では、初めて～2ヶ月に1回と月10回程度の2ヶ所にピークがある。

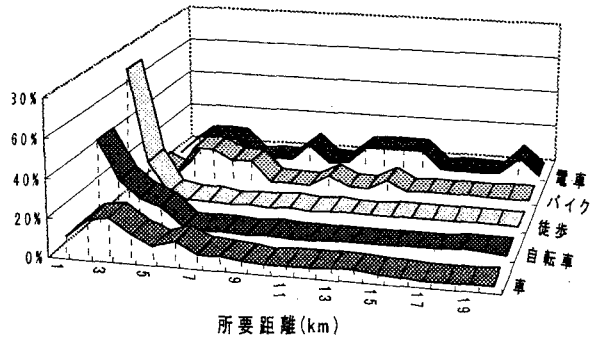
図ー4より、車できた人の目的は遊び(35.3%)、食べる(19.3%)、スポーツ(17.2%)の順で割合が高かった。自転車では遊び(31.1%)、運動スポーツ(17.6%)、釣り(15.1%)の順であった。徒歩の場合は運動(53.4%)、犬散歩(17.8%)、遊び(15.8%)の順であった。

まとめ

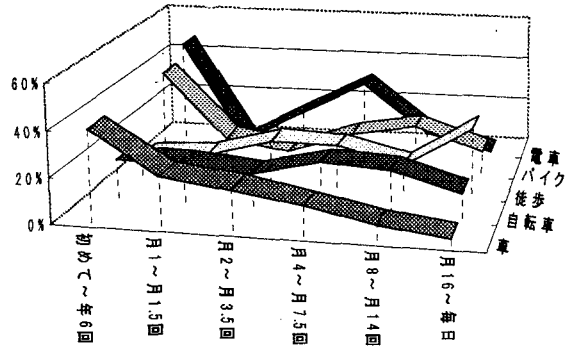
河川空間利用者の居住地の分布範囲から見た沿川幅は、車では8km、自転車では4km、徒歩では2kmの程度と判断される。

表ー2 アンケート調査の概要

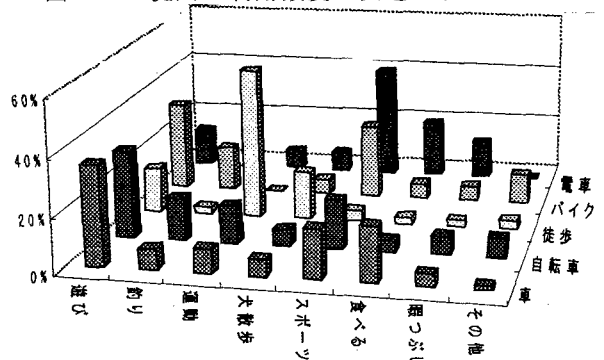
1 対象地	淀川河川敷公園, 14カ所
2 対象者	河川敷利用者
3 アンケート方法	現地で口答により回答を取得
4 回答数	505人
5 調査期間	9月28日～11月14日 計11日間の土、日、祝日のみ
6 質問事項	交通手段、居住地(市、区、町)、所要時間、頻度、公園の感想
7 判断事項	性別、年齢、人間関係、目的



図ー2 居住地公園間の距離と交通手段



図ー3 淀川の利用頻度と交通手段



図ー4 目的と交通手段